

4 みんなとつながって

(4) 公共のために役立つことを

P.152~155

4-(4)

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。

1 この内容項目のページの特徴

高学年の段階では、特に勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して、社会の役に立つことができるように指導する必要がある。

本内容項目のページでは、近江商人の「三方良し」の言葉とともに自分の就きたい職業について考えたり、東日本大震災の出来事から、自分にできるボランティア活動などについて考えたりすることができ、一五五ページの書き込み欄は、各自が取り組んだボランティア活動などについて具体的に振り返り、まとめることができるようになっている。

これらのページを通して、主体的に公共のために役立つとする実践意欲を高めていくようにしたい。

2 活用のポイント

活用に当たっては、勤労が社会生活を支えるものであることに気付かせ、奉仕活動など公共のために役立つ活動に、自主的、積極的に取り組もうとする態度を養っていくようにしたい。

また、各教科等との関連及び家庭や地域との連携を図ったり、児童の体験を生かしたりして、より効果的な指導につなげていくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一五二ページの近江商人の「三方良し」の言葉から、働くことが自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることに気付くことができる。

また、自分になりたい職業を「三方良し」の視点から振り返ることで、公共のために役立つことについて自分との関わりで考えることができる。



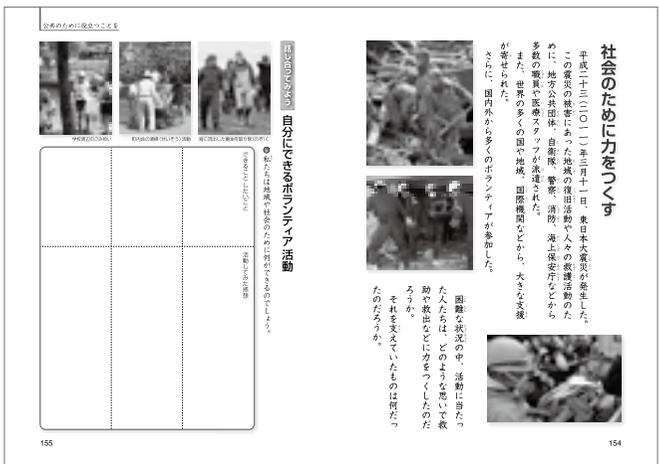
P.152~153

事例

- ① 近江商人の話を読んで、「三方良し」という言葉の意味を知る。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 働くことについての自分の考えを振り返り、自分がないりたい職業について一五三ページに記入し、その例を通して「三方良し」の意味を考える。

特別活動（学校行事）

学校行事の勤労生産・奉仕的行事における学級や地域の美化活動や清掃活動の指導において、働くことの大切さや意義について考えたり、理解したりする際に、一五五ページを活用することができます。



P.154~155

事例

- ① 学校や地域での美化活動や清掃活動において、みんなのため、社会のために働くことには、どのような意味があるか話し合う。
- ② 地域や社会のために何ができるかについて話し合い、「一五五ページの書き込み欄に「できること・したいこと」を記入する。
- ③ 奉仕活動をしている地域のゲストティーチャーから、働くことに対する考えなどを聞く。
- ④ 美化活動や清掃活動について学年や学級として行うことを決め、協力して実行できるようにする。

家庭や地域との連携

一五四ページの写真資料等を参考に、家庭や地域の人から、東日本大震災のときの様子について話を聞く。困難な状況の中、ボランティア活動などに当たった人々の思いやそれを支えたものは何だったのかについて話し合い、公共のために役立つ活動に積極的に取り組もうとする態度を育む。

また、地域でのボランティア活動等への積極的な参加を呼び掛けるとともに、活動後、一五五ページに感想を記入する。

記入した内容を共に参加した家庭や地域の人に見てもらい、励ましの言葉などをもらうことで、児童は、社会に奉仕する喜びを味わい、さらなる実践意欲を育むことができる。

4 みんなとつながって

(5) 家族の幸せを求めて

P.156~159

4-(5)

父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。

1 この内容項目のページの特徴

高学年の段階においては、一層積極的に家庭生活に関わることが求められる。そのため、本内容項目では、家族の幸せのために何ができるのかを考えて、家庭での自分の役割を自覚し、家族のために積極的に役に立つことができるように指導していくことが大切である。

本内容項目のページでは、写真を基に家族に見守られて成長してきた自分自身を振り返ったり、先人の言葉から家族の一員として何ができるかを考えたりできる。また一五九ページの書き込み欄については、家族の一員としての役割と家族へのメッセージを記入できるようにになっている。家庭と連携して活用することで、家族が深い愛情と信頼の絆で結ばれていることについて一層考えを深めることができるような構成になっている。

2 活用のポイント

活用に当たっては、本内容項目に関しての学校での学習の様子を学級通信等で家庭に伝えたり、それぞれのページについて家庭で話し合ってもらうよう依頼したりするなど、家庭との連携を十分に図ることが効果的である。なお、多様な家族構成や家庭状況があることに十分に配慮した指導を行う必要がある。

3 活用場面例

道徳の時間

一五六ページの「家族に見守られて成長してきた私」の文章を読み、話し合ったり、家族との関わりについて考える。

また、家族についていいなと思うのはどのようなときかについて、一五七ページの書き込み欄に記入することで、家族のよさを改めて自覚することができ、家族のために進んで役に立つとする実践意欲や態度を育むことができる。



P.156~157

事例

- ① 一五七ページの写真を見て、家族っていいなと思うのはどのようなときかを話し合い、書き込み欄に記入する。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 「家族に見守られて成長してきた私」を読んで、自分は家族のために何ができるのかを考え話し合う。

家庭科

家庭科の内容「A 家庭生活と家族」における「(1)ア 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと。」及び「(2)ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。」の指導に当たって、家庭生活と家族の大切さについて道徳の時間と関連付けて指導することにより、家族のために進んで役に立つとする実践意欲や態度を育むことができる。

事例

- ① 一五八ページのグラフを基に、家での手伝いの状況について話し合い、家でできる自分の仕事を見付ける。
- ② 話し合った仕事を家で実践し、家の人からコメントをもらう。
- ③ 家庭の仕事をしてみたことや、家の中のコメントから感じたこと、考えたことなどを話し合う。

家庭との連携

一五九ページの書き込み欄を活用し、記入した内容を家の人に見てもらおうようにする。

事例

メッセージを見た家の人から児童へのメッセージを書いてもらうことで、家庭での自分の役割を自覚させるとともに、家族のために進んで役に立つことをしようとする児童の意欲を高めることができる。

- ① 一五九ページの書き込み欄に記入した家族の一員としての自分の役割と家族へのメッセージを家の人に見てもらい、家族への思いについて話し合う。
- ② 家の人にメッセージを書いてもらい、その内容を道徳の時間等に紹介する。



P.158~159

4 みんなとつながって

(6) より良い校風を求めて

P.160~163

4-(6)

先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いより良い校風をつくる。

1 この内容項目のページの特徴

学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力して自分たちの学校をよりよくしようとする心を育て、よりすばらしい校風をつくろうとする態度を養う内容項目である。

本内容項目においては、歌詞や作文などを基に自分の学校よさについて考えたり、自分の学校の校風や学校をよりよくするために自分にできることを書き込んだりできるページを設けている。

これらのページを通して、校風をつくっているのは自分たちであることに気付かせ、みんなで協力してよりよい校風をつくろうとする実践意欲や態度を育むことができる。

2 活用のポイント

高学年の段階では、特に学校の一員としての自分の役割を自覚し、みんなで協力して自分たちの学校をよりよくしようとする心を育て、よりすばらしい校風を積極的につくろうとする態度を養うようにする。

具体的な活動を通して、児童には校風をつくっていくのは自分たち自身であると気付かせると同時に、世話になっている学校の人々への敬愛の念を深めさせていく

うにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一六〇・一六一ページから学校のよさについて感じ取り、話し合う。

また、一六一ページの書き込み欄に記入すること、よりよい校風をつくることを自分との関わりで考えることができる。

さらに、一六二ページの児童作文を中心的な資料として活用することもできる。

面倒だったのはどのような思いからか。○どのようなことがきっかけで、下級生をとてかわいと思うようになったのか。○どのような思いから、五年生にもN小の伝統を受け継いでほしいと思ったのか。

○どの学校にはどのような校風があるかを考え、一六二ページに記入する。

家庭や地域との連携

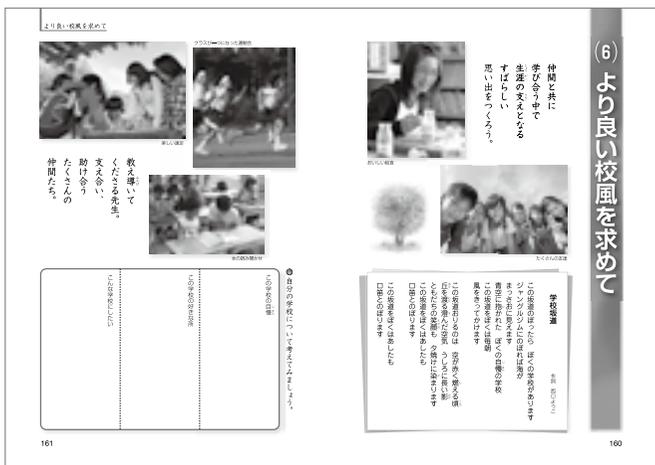
一六三ページの書き込み欄などを手掛かりにして、家庭や地域の人に、学校に対する思いや願いについて聞き取りを行う。家庭や地域の人に学校に対する思いや願いに気付き、学校をよりよくしようとする実践意欲を高めていくことができる。

事例

① 一六三ページを活用して、自分の学校の「校歌」や「校章」に込められた意味や願いについて、調べて分かったことを家庭や地域の人に伝えるとき、学校に対する思いや願いを聞く。

② 家庭や地域の人の学校に対する思いや願いを参考にし、学校をよりよくしていくために自分にできることややってみようことを一六三ページに記入する。

③ 児童がやってみようと考えたことの実践経過を学級通信等で家庭や地域の人に伝え、児童に励ましの言葉などを掛けてもらうことで、児童の実践意欲を高めていく。



P.160~161

作文の内容が、縦割り班活動など身近な経験と重なる部分が多いため、学校に対する作者の思いに視点を当てて自分のことを振り返りながら、よりよい校風をつくることとの意義について考えることができる。

事例①

① 一六〇ページの「学校坂道」の歌詞を読んだり歌ったりして、この歌詞に描かれた学校のよさについて話し合う。

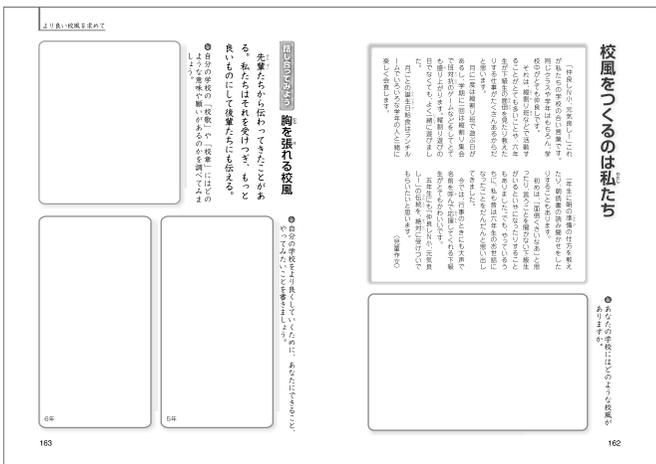
② 読み物資料を読んで話し合う。

③ 自分の学校自慢など、学校への思いや願いを一六一ページに記入する。

事例②

① 一六二ページの児童作文を読んで話し合う。

○ 縦割り班活動で、下級生の世話をすることが



P.162~163

4 みんなとつながって  
(7) 郷土や国を愛する心を

P.164~173  
4-(7)

郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである国家・社会の一員としての自覚をもつことと関連の深い項目である。  
郷土や我が国の伝統と文化を育てた先人の努力を知り、自分もまたそれを継承し、発展させていくべき責務があることを自覚し、そのために努めようとする心構えを育てる必要がある。  
本内容項目のページでは、美しい写真とともに、郷土や日本の伝統と文化を紹介している。また、興味をもった伝統や文化について調べる書き込み欄もあり、我が国の伝統や文化に主体的に関わり、その伝統や文化を受け継いで発展させていこうとする態度を養うことができるようになった。

2 活用のポイント

写真が多く掲載されており、郷土や日本の伝統と文化について具体的に想起し、それらを大切にしようとする心を育むことができるようになっていく。  
これらのページを活用して、道徳の時間だけでなく様々な教育活動で日本の伝統や文化を多様な視点から捉えさせ、自分との関わりで考えられるようにしていきたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一六六から一六九ページは、我が国の伝統と文化について理解し、それらを大切にしようとする態度を養う際に活用することができる。

事例

- ① 一六六から一六九ページを読み、日本の伝統や文化について知る。
- ② 読み物資料「人間をつくる道―剣道―」を読んで話し合う。
- ③ 一六六から一六九ページを読み、日本の伝統や文化に自分がどのような役割を担っているかを振り返って話し合う。
- ④ 伝統や文化に携わる人の話を聞く。



P.166~167

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間において、郷土や我が国の伝統と文化について学習する際に、一六四から一六九ページを活用することができる。

我が国の伝統や文化については、それを支え受け継いできた人たちに取材を依頼したり、ゲストティーチャーとして話をしてもらったりするなど、携わる人の思いについても触れるようにしたい。  
また、郷土や我が国の伝統と文化を今後、自分たちがどのようにして継承、発展させていくのかなどについても話し合うことが考えられる。

事例①

- ① 一六四ページを読み、自分の住む地域「ふるさと」についての学習であるということとを捉える。
- ② 一六五ページの書き込み欄に、自分のふるさとを紹介する文章を書いて、意見交流をする。
- ③ ふるさとのどのようなことを調べるのか、課題を決める。



P.164~165

- ④ ふるさとの自然、伝統、文化、産業など自分が決めた課題について調べたり体験したりする。
- ⑤ 調べたことを内容ごとに整理し、新聞やレポートなど自分が決めた方法でまとめる。
- ⑥ 地域の人を招いて「ふるさと発表会」などを行う。

事例②

- ① 一六六から一六九ページまでを読み、日本の伝統や文化について知る。
- ② 一六九ページの書き込み欄に、興味をもった伝統や文化について、なぜ興味をもったのかも含めて書く。
- ③ 興味をもった伝統や文化について、本やインターネット等で調べたり、携わる人に話を聞いたり、体験したりする。
- ④ 調べたことの内容を整理して、発表できるようにまとめる。
- ⑤ 地域の人や取材に協力してもらった人などを招き、調べたことを発表する。



P.168~169

1 資料の特性

日本の伝統的な武道の一つである剣道を題材にした資料である。

主人公の「ぼく」は、剣道に興味をもち、稽古に通い始める。その細かいいきまり事に戸惑いを感じながらも勝利に向けて稽古を重ねていたが、試合の日、一回戦で敗れてしまった。ふてくされた態度で引き上げをする。「ぼく」に先生は他の試合を見てみなさいと注意する。大人の試合を見た「ぼく」は、その動きの美しさに感動するとともに、日本人が大切にしてきた礼の心を知る。次の稽古で改めて先生の話聞き、長い間受け継がれてきた「人間をつくる道」について考えを深めていくという話である。

剣道という我が国古来の武道を通して、日本の伝統と文化について考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、剣道の稽古の目的は勝つことを目指すことではなく、人間性を磨いていくことにあると気付いた「ぼく」への共感から、日本の伝統や文化が大切にしてきたものを理解し、自らもそれを継承し発展させていこうとする態度を育てていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

我が国の伝統や文化を大切にしようとする態度を育てる。

事例①

「ぼく」の思いを通して、伝統や文化を大切にすることについて考える展開

【主な学習】

- ① 厳しい剣道の稽古に励んでいるとき、「ぼく」はどのような思いだったか。
  - ・ 練習が厳しい。もうやめたいな。
  - ・ 練習は厳しいけれど、試合に勝てるようになるまで頑張りたい。
- ② 大人の試合を見ながら「ぼく」はどのようなことを考えていたのか。
  - ・ 本当にすごいな。自分の試合と全く違う。
  - ・ 負けた方もカッコいいな。振る舞い方が自分とは違う。
- ③ 「人間をつくる道」という言葉を先生から聞いて、「ぼく」はどのようなことを考えたか。
  - ・ 日本人が大切にしてきたことを剣道で学べるんだ。
  - ・ 剣道を続けていくことで、人間性を磨いていくことができるんだ。自分も礼の心構えを大切にしていきたい。
- ④ 一六六から一六九ページを読み、日本に古くから伝わる伝統や文化について、自分がどのように関わってきたかを振り返って話し合う。
  - ・ 歌舞伎を見たことがある。衣装の美しさと役者の動きに圧倒された。

- ・ きに圧倒された。
- ・ 書道を習っている。字が上手になるだけではなく心の勉強でもあることを先生から教わった。
- ・ 餅つきが日本らしくて好きだ。みんなで一緒にできて楽しい。これからも楽しく参加したい。

事例②

伝統や文化に込められている心構えを知り、伝統や文化を大切にすることについて考える展開

【主な学習】

- ① 先生は、どのような思いで「剣道は、人間をつくる道」と言ったのだろうか。
  - ・ 剣道の礼には、日本人が大切にしてきた相手を敬う心が込められている。剣道を通して、日本人が大切にしてきた心構えを学ぶことができる。
- ② いつもとても重かった防具が、心なしか軽く感じられたのは、「ぼく」にどのような思いが芽生えたからか。
  - ・ 剣道を通して、自分も日本人が大切にしてきた精神を学んでいきたいと思ったから。
  - ・ 勝ち負けだけではなく、人間としての立派な振る舞い方を自分も身に付けたいと思ったから。
- ③ ゲストティーチャーから、剣道の礼に込められた意味や、剣道をしてきて学んだことなどの話を聞く。
- ④ 剣道以外に我が国の伝統や文化のすばらしさを感じた経験を話し合う。

四の視点 重点ページ

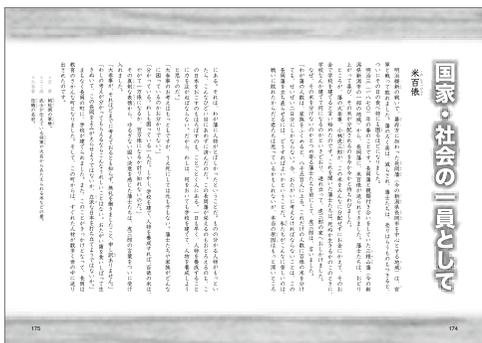
国家・社会の一員として

1 このページの特徴

人物の養成に力を入れ、学校を建てた長岡藩大参事小林虎三郎の話である。小林は、周囲からの反対を受けるも、米百俵を元に学校を建築し、それが多くの優れた人物の輩出につながった。藩、国を支えるのは人だという小林の考えから、国家や社会の一員としての自覚について考えることのできる資料である。

2 活用事例

道徳の時間の中心的な資料として、また、社会科で歴史的人物を学習した後の補助的な資料として、さらには、総合的な学習の時間に先人の努力などを課題として学習する際の資料として、様々な場面で活用することができる。



P.174~175

P.174~175